

Weekly Export Risk Outlook

 EULER HERMES

2 June 2010

In the Headlines

今週の数字: 8.6% >インドの2010年第1四半期のGDP成長)

▶ インド

第1四半期(暦年ベース)の実質GDP成長は前年比8.6%で、2009年第4四半期の6.5%から上昇した。雨季の降水量が少なかったため、農業分野の経済成長に対する貢献は低かった(前年比0.7%増)ものの、それ以外の分野については全体的に好調であり、製造業(前年比16.3%増)とサービス業が主に牽引した。直近の四半期の数字が上方修正されて、2009-10会計年度(4月~3月)通年でのGDPの拡大は予測を上回る7.4%で、2008-09会計年度の6.7%を上回った。ユーロ圏からのマイナス影響や最近の景気刺激政策の段階的撤回があるとはいえ、見通しは明るい。農業分野の回復があるとすれば、2010年(暦年ベース)及び2010-11会計年度の両方で年間GDP成長は8-9%が予測されている。一方でインフレ圧力は継続しているため、インド準備銀行はその公定歩合を遅くとも7月の会議で引き上げると思われる。

▶ チェコ共和国

国民は既成諸政党への不満を先週末の議員選挙で現した。社会民主党が22.1%の得票率(2006年の選挙時の32.3%からダウン)で第1位になり、20.2%得票したODS(2006年選挙時35.4%)がそれに続いた。2007-09年にODSと一緒に中道右派の連立政府を形成したKDU-CSLと緑の党は与党に戻るができなかった。得票を伸ばしたのは2つの新しい中道右派の政党であるTOP09(16.7%)とPublic Affair(10.9%)であった。議会の全200議席のうち合わせて118議席を獲得した3つの中道右派の政党の間で連立の話合いが現在行われており、そのうちの2つの新政党は政治手腕について未知数の議員が多く不安は残るものの改革志向の政府が形成されるであろう。

▶ コロンビア

大方の予測に反して、保守陣営(Partido de la U)の候補者であるファン・マヌエル・サントス氏——前防衛大臣で退職するアルバロ・ウリベ大統領の選ばれた後継者——が選挙の第1ラウンドで46.6%得票して強気にリードしている。とはいえ、第2ラウンドの決選投票が必要とされており、そこでのサントス氏の対立候補はアンタヌス・モックス氏(中道政党である緑の党)である。選挙前の殆どの世論調査で互角あるいはリードしていたモックス氏は第1ラウンドでは21.5%の得票にとどまった。伝統的な諸政党は大きく出遅れた。ウリベ大統領の下での強力な防衛政策を継続することへの期待感が投票をサントス氏にたなびかせたと思われ(特に投票率の高かった農村部で)、サントス氏は明らかに決選投票に向けて勢いを持っている。

▶ アラブ首長国連邦

ドバイワールドとその不動産子会社であるナキール社が抱える債務の問題は返済条件緩和に関する合意が行なわれて一服した。しかし、ドバイにおける企業経営の困難さは今も明確に存在している。連邦の支配者であるモハメド・ビン・ラシド・アル・マクトゥム長老が所有しているドバイホールディング社はその商業部門が2009年に64億米ドルの損失であったと発表した。これらは主に不動産セクターの諸問題に関連している。その結果、5億5千5百万米ドルの債務返済の繰延べ交渉が行われている。加えて、ドバイホールディング社の他の諸部門も債権者たちと交渉中である——DIC(政府系投資会社)は12億5千万米ドルのシンジケートローンに対する返済期日の3ヶ月延長を依頼した。短期的に不動産市場が大きく改善する見込みはないので、不動産セクターからの負の圧力が続くと思われる。

A company of Allianz 

These assessments are, as always, subject to the disclaimer provided below.

Cautionary Note Regarding Forward-Looking Statements: Certain of the statements contained herein may be statements of future expectations and other forward-looking statements that are based on management's current views and assumptions and involve known and unknown risks and uncertainties that could cause actual results, performance or events to differ materially from those expressed or implied in such statements. In addition to statements which are forward-looking by reason of context, the words 'may, will, should, expects, plans, intends, anticipates, believes, estimates, predicts, potential, or continue' and similar expressions identify forward-looking statements. Actual results, performance or events may differ materially from those in such statements due to, without limitation, (i) general economic conditions, including in particular economic conditions in the Allianz SE's core business and core markets, (ii) performance of financial markets, including emerging markets, (iii) the frequency and severity of insured loss events, (iv) mortality and morbidity levels and trends, (v) persistency levels, (vi) the extent of credit defaults (vii) interest rate levels, (viii) currency exchange rates including the Euro-U.S. Dollar exchange rate, (ix) changing levels of competition, (x) changes in laws and regulations, including monetary convergence and the European Monetary Union, (xi) changes in the policies of central banks and/or foreign governments, (xii) the impact of acquisitions, including related integration issues, (xiii) reorganization measures and (xiv) general competitive factors, in each case on a local, regional, national and/or global basis. Many of these factors may be more likely to occur, or more pronounced, as a result of terrorist activities and their consequences. The matters discussed herein may also involve risks and uncertainties described from time to time in Allianz SE's filings with the U.S. Securities and Exchange Commission. The Group assumes no obligation to update any forward-looking information contained herein.



▶ 南アフリカ

第1四半期に実質 GDP は前四半期比 4.6%拡大(2009 年第 4 四半期は同 3.2%、2009 年第 3 四半期はわずか同 0.9%に比較して)し、幾つかのセクターで今なお控えめであったもののこの成長は経済の全分野にわたるものである。2009 年から個人所得は十分に回復しておらず、雇用水準についても今なお収縮しつつある。住宅建設についてもまだ底を突いておらず、住宅以外の建設もさらに下がりつつあり、設備投資は抑えられたままである。これまで経済を牽引してきたワールドカップ以前の建設セクターと政府支出(景気刺激政策)は今後下向きになるが、最近の適量の降雨によって農業セクターの経済成長への貢献とワールドカップ(6-7 月)による支出の増加が見込まれるので、2010 年通年では 3-3.5%の GDP 成長があると見られる(昨年は 1.8%の GDP 収縮)。



▶ ペルー

第1四半期の実質 GDP 成長は前年比 6%アップ(2009 年第 4 四半期は同 3.4%アップ)であったが、これは 2008 年以来最高の四半期成長であり、ほぼ予測通りであった。この回復はコモディティ価格によって刺激されたもので、財政及び金融政策により支えられた。第1四半期は建設業(前年比 16.8%アップ)が牽引したが、製造業も 2008 年第 4 四半期以来初めて上昇した(+7.3%)。需要面では、個人投資と個人消費両方が上向き、政府支出も強力だった。この元気な景気の上向き——それは、コモディティ価格が急落しなければ今年 5-6%の GDP 成長をもたらす——に対応して、中央銀行は 5 月はじめに政策金利を 1.25%から 1.5%に上げた。対外収支は良好であり、政府の借金も比較的低い。



▶ タイ

2 週間前に反政府運動家たちによって占拠されていたバンコクの商業地区の一部が陸軍部隊によって取り戻された後、非常事態宣言はまだ撤回されていないものの、首都の治安は回復し、殆どの企業は業務を再開した。今日アビシット首相の不信任決議案は今回の危機への対応を評価されて否決された。第1四半期の実質 GDP は前四半期比 3.8%(季節調整後)成長し、ベース効果は前年比成長率を 12%に上げた。第2四半期は、政情不安の影響を受けて、GDP は前四半期比で収縮すると考えられ、今年下半期の政治的・経済的見通しは極めて不明瞭である。政治的情勢が 2006-2009 年(その期間経済は適度なペースで成長した)の水準まで戻れば、2010 年(暦年ベース)の GDP は 4%前後拡大し得るであろう。



▶ スロベニア

第1四半期は季節調整後の実質 GDP が、2009 年第 4 四半期に 0.3%下降した後、前四半期比 0.5%収縮した。前年比ペースでは、下降のペースは第 4 四半期の 5.5%から第 1 四半期は 1.2%へと緩和した。個人消費は横ばいで政府支出は前年比 1.8%成長したが、8.2%もの投資の下落が国内需要を 1.6%引き下げた。輸出の伸び(4.5%)が輸入の伸び(3.8%)を上回ったので対外需要は 0.5 ポイントのポジティブな貢献をした。失業率は第 4 四半期の 6.4%から第 1 四半期は 7.1%へと上昇したので、個人消費は弱いままとなり、2010 年(暦年ベース)では GDP の成長はわずか 0.5%前後になるだろう。消費者物価インフレーションは 4 月の前年比 2.3%から 5 月には同 2.1%へと少し緩和したが、それは第 1 四半期の平均 1.4%よりも高かった。

Worth Knowing

▶ アメリカ

最新の経済指標(GDP・消費者心理・工場受注・ISM指標・建設支出・住宅販売・収入など)は力強い回復を示している。今週金曜の雇用レポートについても5ヶ月連続の成長という結果が見込まれているものの失業率は9.7%-9.9%にとどまるであろう。

▶ コモディティ

石油: 72.7USD/バレル(今年平均 78.6USD/バレル)
金: 1,227USD/オンス(今年平均 1,141USD/オンス)

For more information, visit

www.eulerhermes.com